

第5回早石修記念賞

公益財団法人 小野医学研究財団（理事長：川淵 和一十）は、2021年11月24日（水）に開催されました理事会において、大阪大学 寄附研究部門 微生物病研究所 藪本難病解明寄附研究部門 免疫学フロンティア研究センター 糖鎖免疫学研究室 教授 木下 タロウ博士に「2021年度 第5回早石修記念賞」を贈呈することを決定いたしました。

受賞者には、正賞（楯）、副賞 500万円が贈られました。

贈呈式および記念講演会は、2022年6月11日（土）午後5時00分より、千里ライフサイエンスセンター（大阪）にて執り行われました。

《受賞者》

木下 タロウ（きのした たろう）博士

大阪大学 寄附研究部門 微生物病研究所
藪本難病解明寄附研究部門
免疫学フロンティア研究センター
糖鎖免疫学研究室 教授



《受賞対象となった研究業績》

「グリコシルホスファチジルイノシトールに関する生化学的・医学的研究」

木下博士は、細胞膜に固定されている一連のタンパク質である、グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）アンカー型タンパク質の生合成や細胞膜への移行機序を明らかにし、その過程に関わる遺伝子群の大部分を同定した。この世界に先駆けた 140 種にも及ぶ一連のタンパク質群の生合成経路や機能に関する研究は、“GPI アンカー型タンパク質”という新しい研究分野を確立するに至った。さらに、GPI アンカー型タンパク質生合成の初期ステップを司る遺伝子の同定と cDNA クローニングの結果、造血幹細胞における PIGA（ホスファチジルイノシトールグリカン、クラス A）と呼ばれる遺伝子の体細胞突然変異が発作性夜間ヘモグロビン尿症の原因である事を証明し、本難病の病態解明に大きく貢献した。

これらの業績は「脂質研究に於ける独創的な研究による新しい分野の確立」を対象とする早石修記念賞の受賞者としてふさわしいと考えられる。

《略歴》

- 1974年3月 東京大学農学部卒業
- 1977年3月 東京大学院農学系研究科修士課程修了、農学修士
- 1981年3月 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了、医学博士
- 1981年4月 日本学術振興会、奨励研究員
- 1982年2月 大阪大学医学部細菌学教室、 助手
- 1982年8月 ニューヨーク大学医学部病理学部門研究員(1985年8月まで)
- 1988年4月 大阪大学医学部細菌学教室、 講師
- 1990年10月 大阪大学微生物病研究所、免疫不全疾患研究分野、教授
- 1998年7月 大阪大学遺伝情報実験施設長 (2001年4月から組織変更によりセンター長)
(併任) (2003年10月まで)
- 2001年11月 大阪大学評議員 (併任) (2007年10月まで)
- 2002年4月 大阪大学総長補佐(2006年3月まで)
- 2003年10月 大阪大学微生物病研究所、所長(2007年10月まで)
- 2007年10月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター、副拠点長(2017年3月まで)
- 2007年10月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター、糖鎖免疫学、教授
- 2008年4月 大阪大学総長補佐(2011年8月まで)
- 2011年4月 大阪大学適塾記念センター、副センター長 (兼任) (2017年3月まで)
- 2017年4月 大阪大学名誉教授
- 2017年4月 大阪大学微生物病研究所、籾本難病解明寄附研究部門教授
- 2018年12月 大阪大学栄誉教授